

基本施策評価シート

基本施策最終評価
B

基本施策通し番号 21

基本施策 雪に強いまちづくり

構成施策

施策番号	施策名	施策最終評価
施策1	雪に強い道路づくり	A
施策2	雪に強いまちづくりの推進	B

成果指標

指標	内容	令和2年度 目標	令和2年度末 実績	単位	令和2年度の成果の検証
流雪溝の整備	流雪溝の整備延長距離数	88,000	88,103	m	新庄地係における道路改良工事により流雪溝の整備延長が増加し、除雪作業の利便性が図られた。
降雪期前の雪下ろし作業登録者数	降雪期前の屋根雪下ろし作業登録者数	200	154	人	作業する登録者の数が限られている。

後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・降積雪期における快適な市民生活と円滑な道路交通を確保するため、除雪車や流雪溝の整備、地域ぐるみによる屋根雪下ろしの推進など、雪に強いまちづくりに取り組んできた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化、核家族化の進行による高齢者世帯や、市街地の空洞化による空き家が増加しており、これらの除排雪対策のため、地域ぐるみの助け合いによる除雪や、地域で計画的な流雪溝の利用が必要とされている。また、除雪の迅速化や歩行者への安全確保も求められている。

社会情勢・市民ニーズの変化

	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化により、雪おろしや雪処理に困っている世帯が増えている。あわせて地域ぐるみ等による屋根雪下ろし作業や除雪車のオペレータが高齢化してきている。 ・異常気象により降積雪量が予測困難な状況となっており、市道や公共施設の除雪業務受託者の業務量が不安定となり、除雪体制の維持が困難となることが予測される。 ・市民が手軽で円滑に除雪作業が行える流雪溝の整備が望まれている。
--	---

現在の「現状」と「課題」

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・水利権の関係で市街地の流雪溝の水量をこれ以上確保することは困難であり、物理的に流雪溝の水量を増やすことができない。 ・異常気象の影響により、降積雪量の変動が大きく予測困難な状況が続いている。 ・地域ぐるみ等による屋根雪下ろし作業や、除雪車のオペレータの高齢化が進み、担い手不足が懸念される。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根雪下ろし作業の新規登録の推進や、除雪車オペレータなどの新たな除雪作業の担い手の確保が課題となっている。また、除雪業者の除雪力の維持・強化を図るとともに、除雪業務の適正な管理と業務報告や検収業務の省力化を図る必要がある。

基本施策の「成果」

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・除雪体制の維持、流雪溝の整備、道路消雪施設の適正管理により、降積雪期の円滑な道路交通を確保した。 ・「克雪市民会議」の開催、「雪害対策本部」の設置により、市民や関係機関との連携・協力体制が整い、大雪による雪害に適切に対処する体制を構築し、円滑な道路交通を確保した。
----	--

改善点

	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化社会を迎え、除雪体制の維持改善に努めるとともに、平成30年豪雪で効果的に機能した屋根雪下ろし作業員登録制度について、作業員登録の必要性を広く啓発し、屋根雪下ろし作業員のさらなる確保に努める必要がある。 ・除雪業者の除雪作業方法の継承、業務完了報告と検収作業の省力化、委託経費の適正化を図るため、除雪作業の見える化と作業軌跡の記録を可能とする除雪車デジタル運行管理システムを導入する。
--	--